

飛驒の國 神社御朱印巡り

13 高田神社 たかだじんじゃ

当神社は4～5千年前の多数の遺物や祭祀遺跡が発見されている。清和天皇 貞観9年(867年)に従五位上を授けられ、後醍醐天皇 延長5年(927年)の延喜式には2月の祈年祭に官祭の班幣を戴く飛驒国式内八社の一つに列し、国幣小社とされている。現在でも例祭の御神幸には武者姿が警護に当たり、火縄銃を発射して供奉している。



飛驒市古川町大江字神垣内2669番地
☎ 0577-73-2881

※営業時間 午前9時～午後4時
※授与所不在の場合はインターフォンを押してください。

14 久津八幡宮 くづはちまんぐう

今を遡ること1600年余りも昔、飛驒の怪賊両面宿禰(すくな)を征討するため時の仁徳天皇は御弟難波根子武振熊命(なんばねこたけふるくまのみこと)をお遣わしになられ両面宿禰を討って飛驒の国を平定開拓されました。この時に武振熊命は御父応神天皇の尊霊をお祀りし、武運長久、国土平安を祈られたのが久津八幡宮の創始であると伝えられています。室町時代の応永19年(1412年)に飛驒国領主白井太郎俊国が現在の本殿を建立、桃山時代の天正9年(1581年)には飛驒国領主三木自綱によって現在の拝殿が建築され、此の二棟建物は国指定の文化財建造物に指定されています。



下呂市秋原町上呂2345-1
☎ 0576-52-1240

※お求めの場合は事前に神社までご連絡ください。

15 宮谷神明宮 みやたにしんめいぐう

創建年代不詳であるが、社頭の「夫婦杉」は樹齢600年と推定され、又、藤原時代作と推定される神像もあり、当社の由緒を物語っている。古書に宮谷神明宮は郷中の総社と見え、近世川西総社と云う。



下呂市秋原町羽根字宮谷2842番地

※4月第2土・日、例祭日のみ可能

16 柯柄八幡神社 えがらはちまんじんじゃ

創立年代は不詳であるが、両面宿禰(りょうめんすくな)の反乱を難波根子武振熊命(なにわねこたけふるくまのみこと)が討伐、その時応神天皇を金山村に勧請し先勝を祈願。後に里人も尊霊を奉り八幡宮を創建した。応永18年(1411年)飛驒の乱制定時、八幡宮を守神とする京極高員が金山村で鎌倉荏柄天神を勧請し祈願、乱を治め帰路金山村で褒賞を与えた。この時から荏柄を変え柯柄八幡神社とし崇敬している。



下呂市金山町神戸平1492番地

※頒布は、例祭時及び新年3日まで可能です。

17 東総社 祖師野八幡宮 ひがしそうしゃそしのはちまんぐう

養和元年(1181年)門原村(下呂市)の田口左近光員が周辺の村々の総代として鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請し、祖師野の地に創立したと言われている。また平治の乱で平清盛に追われた源義朝の長男悪源太義平が美濃から飛驒に潜伏していたときに、この地域を困らせていたヒビを退治した。住民たちに村に残って欲しいと頼まれたが愛刀を村に残し立ち去ったと言われている。この地に伝わる「祖師野丸伝説」である。その祖師野丸は神剣として県の重要文化財に指定され現在も大切に守られている。



下呂市金山町祖師野字茅野223番地

※例祭(10月第3日曜日)交通安全祈願祭(1月2日)に可能。左記以外は常駐していません。

18 富士神社 ふじじんじゃ

創立年代は不明で、戸田采女正による元禄8年(1695年)の検知に「富士権現宮地 七反五畝歩除地」と記されています。昭和24年(1949年)に本殿を現在地に移動し、明治42年(1909年)に無格社山神社を合祀。令和6年(2024年)4月には同地内山中の鎮座する秋葉神社を合祀。特殊神事に町指定無形民俗文化財の雌獅子神楽舞があります。



下呂市小坂町落合1147番地

※書置きのみ。書き手が二人、字違いで2種類あります。各神祭にちなんで「主神 木花佐久夜比売命 桜」、「相殿 大山祇命 狼」、「相殿 菅原道真公 梅」、「相殿 火乃迦具土神 瓢箪」のスタンプとなっています。

19 乗鞍本宮 のりくらほんぐう

古来乗鞍岳全体を神体山と仰ぎ、往古には位山と称したともいわれ、別名愛宝山、鞍ヶ嶺、日抱尊とも称したが創立年代は未詳である。昭和3年(1928年)頂上鞍ヶ嶺神社と里宮伊太祁曾神社が合併し、乗鞍神社と改称する。昭和23年(1948年)登山自動車道が完成、昭和25年(1950年)乗鞍本宮を設立し頂上本社を造営、昭和27年(1952年)豊平に中之社を創建する。

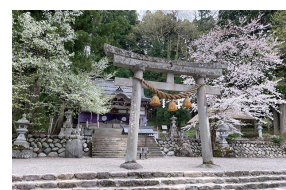


高山市丹生川町岩井谷字乗鞍嶽1224
☎ 080-4116-9256(神社携帯)

※乗鞍開山期(5/15～10月下旬)に頂上本殿と中之社(豊平)の朱印を授与します。頂上本殿の朱印は中之社(豊平)で授与します。

20 白川八幡神社 しらかわはちまんじんじゃ

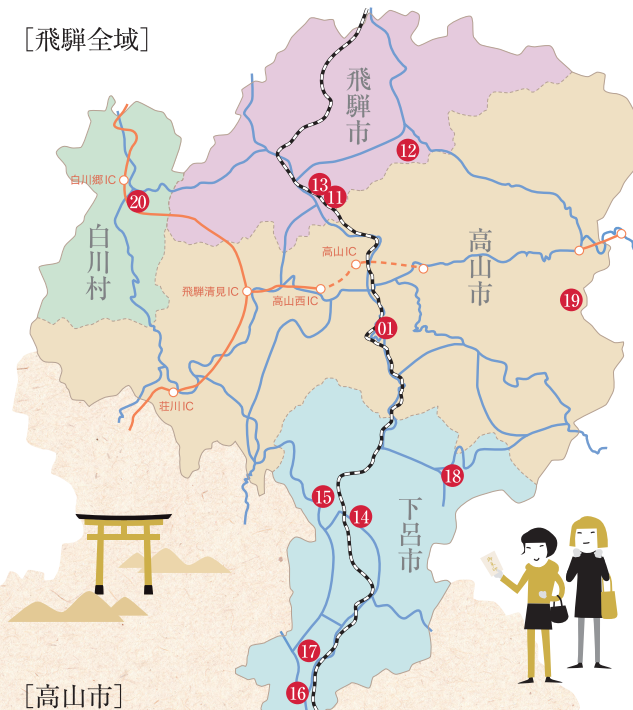
当神社は和同年間の創建と伝えられ美しくも厳しい山里の自然とともに生きる村人の深い祈りを集めてきました。御祭神は応神天皇です。村の先人達は山野の実を醸し御神酒として神に捧げました。長い歳月の間に氏子の酒づくりの技術を育みつつ後世に引き継がれ毎年10月14・15日の例祭は奇祭どぶろく祭りとして知られています。



大野郡白川村荻町559番地

※10月14・15日例祭日のみ。書置き、数に限りがあります。

[飛驒全域]



[高山市]

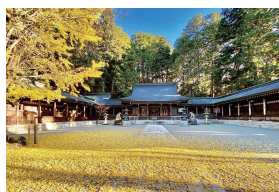


御朱印を受ける際の注意事項

- 御朱印をお受けする前に、必ず心を落ち着けて神社へ参拝しましょう。
- 御朱印帳は大切に扱い、敬神の想いをもって御朱印をお受け下さい。
- 記帳する御朱印帳を持参して、直接書いてもらう事を希望する方は、事前に対応等の確認をしていただき、御参拝下さい。
- 各神社の頭にある番号は、地図上に位置を明確にするための番号で、巡礼順序を示したものではありません。ご都合に合わせて自由に御参拝下さい。
- 本パンフレットには許可を得た神社のみ掲載しております。

01 飛驒一宮水無神社 ひだいちのみやみなしじんじや

霊峰・位山(くらいやま)を御神体山とする飛驒国一宮、旧国幣小社で、創祀は神代と伝わる。水無大神(みなしのおおかみ)をはじめ飛驒国中の神々が奉祀されている。位山は、日本海側へ流れる宮川の源流、また、太平洋側へ流れる飛驒川との分水嶺にあたり、古より源流を司る水主(みぬし)として信仰されている。その御神徳は広く、特に農業と健康の守り神としての御神威が高いとされ、子授け・安産・育成を守護する水分神(みくまりのかみ)、飛驒路の要所を守護する交通神としても崇敬されている。



高山市一之宮町5323番地
☎ 0577-53-2001

※手書きする朱印は1種類のみ。書置きの朱印は、本社と奥宮の2種類です。

02 櫻山八幡宮 さくらやまはちまんぐう

仁徳天皇の御代、飛驒の凶賊、両面宿禰征討將軍の難波根子武振熊命が、先帝応神天皇の御尊霊を奉祀し、戦勝祈願を行ったのが創祀と伝えられる。その後、境内は盛衰を経て、元和9年(1623年)高山領主金森重頼は、社殿を再興し神領地を寄進した。以後高山北部を氏子と定め、例祭には奉行を派遣して神事を管理した。飛驒が天領となり、氏子を初め代々の郡代は篤く崇敬して奉行祭を継承し境内を整えた。戦後、かつての奉行祭、例祭(秋の高山祭)が全国に知られ参拝者は急増する。



高山市桜町178番地
☎ 0577-32-0240
☎ 0577-32-5166

03 日枝神社 ひえじんじや

永治元年(1141年)、三仏寺城主の飛驒守平時輔が近江の日吉大神を片野町に勧請したのがはじまり。養和元年(1181年)、源義仲により焼失し、里人が社殿を再興。天正13年(1585年)、金森長近父子が飛驒を平定、城山に高山城を築き、城の守護神として現在地に奉遷した。現在は、春の高山祭りとして「山王さま」と親しまれている。



高山市城山156
☎ 0577-32-0520

04 飛驒総社 ひだそうじや

飛驒国内の延喜式内8社、国史所載10社の計18社を勧請してつくられた飛驒国の総社。承平元年(931年)に創祀し国司自ら奉仕され、文治2年(1191年)に社殿が建立されたという自伝がある。5月4日・5日の例祭では、肩車や逆立ちなどのアクロバティックな迫力ある親子獅子舞が魅力。



高山市神田町2-114
☎ 0577-32-0687

05 飛驒護國神社 ひだごこくじんじや

当神社は高山城三の丸に鎮座し、飛驒国(3市1村)の戦没者英霊をお祀りしております。国の為、尊い生命を捧げられた郷土の守り神として人々に崇敬されています。境内には、飛驒大神宮(衣食の神)黄金神社(金の神)祖霊殿・久和司神社(お菓子の神)飛驒匠神社(大工の祖神)が鎮座しています。



高山市堀端町90
☎ 0577-32-0274

※直書き可能な御朱印は、護國神社・飛驒大神宮・黄金神社の3種類がございます。飛驒匠神社のみ書置き対応となります。

06 飛驒天満宮 ひだてまんぐう

延長元年(923年)菅原道真公の三男茂公が建立。亡き父を慕って自ら木像を掘り祠に祀ったのが始まりで、親を思う子の真心が胸を打つ太宰府天満宮直系の神社。令和5年(2023年)には創建1100年奉祝祭を斎行した。合格祈願や厄除への信仰が篤く、境内には疫病封じの神様も祀られている。



高山市天満町2-30
☎ 0577-32-1466

※毎月25日には金文字の朱印を授与します。

07 飛驒東照宮 ひだとうしょうぐう

徳川家康公没後3年の元和5年(1619年)に高山藩主金森三代重頼が高山城内に東照権現社を奉祀。10年後の寛永5年(1629年)に城の西側の西之一色村鴻巣山に新たに建立したのが始まりとされる。その後文化15年(1818年)に金森家末裔や桜山長久寺良賢法印、芝郡代、高山町民の財政援助などを経て現在の社殿、境内が完成。



高山市西之一色町3-1004
☎ 0577-32-1883

※常駐していません。書置きのみです。

08 一本杉白山神社 いっぼんすぎはくさんじんじや

創建は不詳ですが、大宝年間(701年~704年)に役小角が、加越白山の選擇所としたのが始まりです。安土桃山時代に当地の高山城主金森氏から庇護され、高山藩が廃藩になると、その後は天領陣屋に詰める代官や郡代が庇護してきました。現在の拝殿は、江戸時代後期の天保10年(1839年)に再建されたもので、宝形造り別名大成院と言った寺院建築に近く、神仏習合の名残が見られる建物であり、高山市指定文化財となっております。



高山市八軒町3丁目9番地

※書置きになります。

09 陣屋稲荷神社 じんやいなりじんじや

慶長年間、宮川の西に下屋敷及び蔵屋敷を構へ(今の陣屋跡)邸内特に蓄穀倉の鎮護として当神社が奉祀された。元禄5年(1692年)以後は幕府直轄となり、此の地に代官所(陣屋)が置かれ、宝暦4年(1754年)に稲荷分霊を合請し、安永3年(1774年)には社殿が再建された。代々陣内鎮守、貢米倉の守護神として陣屋の神様、或いはお役所の稲荷様と親しまれた。大正3年(1914年)に一本杉白山神社隣地に社殿を移転した。



高山市八軒町3丁目4番地

※書置きになります。

10 荏名神社 えなじんじや

創建の由緒は不詳。延喜式神名帳に「飛驒国大野郡 荏名神社」と記され、小社に列しているが、後に衰廃し、所在は不明となっていた。文化15年(1818年)、高山の国学者である田中大秀が、江名子村の稲置の森にある祠堂を荏名神社と比定し、これを再興。本殿の傍らに隠棲し、荏野翁と称し、国学の研究と後進の育成に専念した。



高山市江名子町1290番地

※常駐していません。書置きのみです。

11 気多若宮神社 けたわかみやじんじや

当社は飛驒古川駅から東へ徒歩10分程の丘陵地に鎮座。御祭神は大日貴神(大国主神)で、例祭は4月19日(起し太鼓)と20日の2日間行なわれる。この古川祭は、平成29年(2017年)にユネスコ世界無形文化遺産に登録され、またアニメ映画「君の名は」では表参道のシーンが想定され、聖地巡礼とかで御朱印の恩恵を頂いた。



飛驒市古川町上気多1297番地
☎ 0577-73-2568

※営業時間 午前9時~午後4時 ※授与所不在の場合はインターフォンを押してください。

12 大津神社 おおつじんじや

創始年代は不明だが、平安時代初期には祭祀が行なわれていたとされる。建武年間に領主・江馬氏が武神信州諏訪大明神の分霊を勧請、社号も大津神社から諏訪大明神と改めた。文化元年(1804年)に田中大秀門下らの考証により、社号を諏訪大明神から大津神社に復帰。明治28年(1895年)には船津大火が起こり大津神社なども焼失し、現在地に移された。



飛驒市神岡町船津1823-2
☎ 0578-82-0254



御朱印は、神社仏閣に写経した経典を納めた際に、受取の証として神社仏閣で発行された証書が起源とされています。やがて近代を迎えて全国に鉄道が敷設されるようになると、これまで限られた者しかできなかった旅行が一般化していきました。各地の有名な神社も旅行の目的となり、参拝の証として御朱印を集めることも盛んに行われるようになりました。そして、平成の後半頃からブームと呼ばれるほど御朱印は多くの人に浸透しました。中にはブームの過熱によるトラブルや本来の信仰的な意味が薄らぎにされるような事例もありますが、御朱印をきっかけに神社を参拝して、その土地の風土に思いを馳せる人も増えています。